

7月歴文研修会・報告 比叡山延暦寺を訪ねる

八木 順一

山上の涼しさを期待していたが、梅雨明けでむし暑い。しかし旅行日和になった。今回は「比叡山延暦寺を訪ねる」をメインテーマにし、最澄と南都仏教に焦点を当てての研修になった。

7月10日、27名の参加者。西大寺駅を出発後、京奈和道を走りながら、今日の日程の説明や代表のあいさつで研修がスタート。続いて今回の世話人から自己紹介や本日訪れる寺院の概要の説明などを聞く。そして、城陽ICへ。

ここからは24号線経由で宇治を経て宇治田原に至る。ここで、日本で最初に緑茶を作りだした中谷宗円の話や、徳川家康の伊賀越えに触れる。そのあと「禪定寺」へ。寺の由来などを聞いた後、茅葺の本堂・客殿を見学。さらに宝物殿では重文の素晴らしい木造十一面観音立像など12体の仏さまと対面。

時間がもっとあれば、という声も聞かれる。その後は猿丸神社を車から見学をし、



(禪定寺)

大津市坂本地区に。

車中では坂本の地形や歴史、そしてこれから訪れる生源寺と穴太衆の石積みについて話を聞く。その後滋賀院門跡の石積みを見学したり、生源寺では仏教の根源に関わる話を聞く機会を得た。易しく解き明かされた内容は特に印象に残り、仏教に対して十分納得がいくものとなる。

そしていよいよドライブウエーを通り、比叡山東塔へ。西大寺から延暦寺に至るまで車中では、何回にも分けて「仏教の始まりから日本伝来まで」「日本への仏教伝来と南都仏教」などについて説明が行われるが、最後に比叡山の上では「最澄の生涯とその思想」についても特に懇切丁寧な話がされる。

昼食後に根本中堂と大講堂へ足を向ける。

根本中堂は比叡山第一の総本堂だが、あいにく現在は改修工事中。しかしこのせいか、参拝者も少なくじっくり見学ができた。



また大講堂は

法華大会や經典

(滋賀院門跡)

の講義などに使われるお堂で、昭和31年の焼失後に坂本の参仏堂を移築したものとか。ここは代表的な座主の円珍や円仁の他に法然や親鸞などの木造の各宗祖師が安置されている場所である。

次に向かったのは西塔。ここでは浄土院と釈迦堂、そして、にない堂を訪れる。特に浄土院は最澄のご廟所になり、比叡山では一番清浄な聖域になる。56歳で入滅されたあと、この地に埋葬されたのである。また、にない堂は法華堂と常行堂という同じ形の二堂が廊下でつながっており、法華堂では座り続けて法華経を念じる堂座三昧が行われ、常行堂では、歩きながら阿弥陀経を念じる堂座三昧が行われるのである。

そして最後は、横川地域。ここでは横川中堂を見学する。横川中堂は円仁による開創だが、信長の焼き討ちや火災による焼失など数奇な運命をたどり昭和46年にやっと再建されたものだ。本堂の聖観世音菩薩は、度々の火災を免れた不思議な藤原時代の木造の仏像である。また今回は足を運べなかったが、ここにある元三大師堂は比叡山の内部派閥抗争で荒れ果てていた堂宇を立て直した良源(元三大師)を祀る。また彼は回峰行やおみくじの創始者といわれる。



(浄土院)

帰路は、西大津バイパス、名神高速道、そして第2京阪道、京奈和道を経て無事大和西大寺駅に到着。